

## 北本・本庄・熊谷(第4班)

鴻巣市における水害・土砂災害年表

発生年月	台風名称等	被害状況	痕跡等の有無とNO
1742 (寛保2年7・8月)	暴風雨	関東でも暴風雨により洪水を起こした。上野・下野・武蔵などの田畑80万石余が水損し、本所深川周辺の諸村・諸町で溺死人が多数発生し、鴻巣市域の村々もこの水害の被害を蒙っている。	無
1824 (文政7年9月)	大雨	元荒川の安養寺地内が欠損して冠水した。	無
1869 (明治2年7月) 1870 (明治3年7・9月) 1872 (明治5年7月)	暴風雨 大風雨 大風雨 大風雨 暴風雨	荒川や元荒川に面した村々は度々の水害に苦しまなければならなかった。「埼玉の気象災害」によると1869(明治2年)から1872(明治5年)の荒川は毎年のように水害に見舞われていた。利根川が出水し、家屋を損なうと記録されている。荒川が満水となり、田畑が冠水した。	有 NO.4-1
1890 (明治23年8月)	台風	元荒川右岸の低湿地に位置する常光村の被害が大きく、死者2名・田畑の全壊・一部損壊を合わせ耕地848町2反6畝余あまり被害があった。	無
1907 (明治40年8月)	台風	特に北足立・比企・北埼玉・大里郡下の水害の被害ははなはだしく、全県で死者・行方不明13人、負傷者17人、流出崩壊した家屋201戸、破損家屋7569戸、浸水家屋1万8174戸に達した。農作物・堤防・橋梁・道路などに大きな影響を与えた。	無
1910 (明治43年8月)	台風 豪雨	この水害は、甚大な被害をもたらした。鴻巣市警察署管内では床上浸水1566戸、床下浸水221戸、被災人口1万352人にのぼり、笠原村も浸水の被害をうけた。また、耕地の冠水、流出、埋没などによって農作物の収穫に大きな影響を与えた。	無
1913 (大正2年8・9月)	豪雨	鴻巣町・常光・田間宮・馬室の各村に浸水の被害を出している。鴻巣町では下水路のない中山道の西側に被害が集中した。	無
1947 (昭和22年9月)	カスリーン台風	熊谷市久下新田で破堤し、東の元荒川筋の町村を襲った。田間宮村の大間堤防も破堤し、全村が冠水し、死亡者3人、家屋の流失3戸、全壊87戸、半壊137戸、床上浸水362戸床下浸水65戸に及んだ。耕地は計229.1町のうち214.2町とほぼ全域が冠水し作物に甚大な被害を与えた。常光村では田間宮村の荒川の堤防が決壊したことにより、農地は冠水田188町3反歩、冠水畑42町3反歩に達し、全耕地が冠水した。	有 NO.4-1
1986 (昭和61年8月)	台風10号	鴻巣市では床下浸水18戸	無
1887 (昭和62年8月)	寒冷前線	寒冷前線の通過により、雷を伴った強雨 鴻巣市では床上浸水3戸、床下浸水14戸	無
1999 (平成11年8月)	大雨	鴻巣市では床下浸水8戸	無
2000 (平成19年9月)	大雨	鴻巣市では床下浸水6戸	無

出典資料名：鴻巣市史・鴻巣市史資料編 鴻巣市史編纂調査会 H10.9 鴻巣市地域防災計画

旧川本町(現深谷市)における水害・土砂災害年表

発生年月	台風名称等	被害状況	痕跡等の有無とNO
1747 (延享4年8月)	大雨	荒川洪水。本田村沿岸のL=1000mW=36m 欠損河川敷になる。鯨井義夫家文書 119・393	無
1748 (寛延元年6・8月)	大雨	荒川洪水。上記個所さらにW=36m欠損。農家67軒退転鯨井義夫家文書 393	無
1749 (寛延2年8月)	台風	荒川沿岸L=740m・W=36m程が欠損 22軒家屋敷崩壊 鯨井義夫家文書 521	無
1757 (宝暦7年4・5月)	大雨	関東大洪水。上川上村の29軒で床上浸水、真下勝太郎家文書 60	無
1783 (天明3年6月)	大雨	荒川・吉野川など満水、芝原の惣右衛門屋敷は60cm床上浸水	無
1783 (天明3年6月)	浅間山大噴火	6月29日より浅間山焼出し8日0時より雷夥しく、大雨のように砂が降った。昼間も日暮れの様で、行灯で粥を食べた。利根川大満水で家・人・馬流れる事数知れず。本田村でも6cm程砂が降った。鯨井義夫家文書 407	無
1859 (安政6年6月)	大雨	荒川洪水。濁流が右岸の植松・俵薬師付近から押し上がり住家7軒、半壊の家も多く5名が水死、半死の者も多い。左岸は菅沼村地先で築堤を33m程押し破り、瀬山村にて8軒押し流れ河原のごとく、8名水死。鯨井義夫家文書 453・田島賢一家文書 400	無
1868 (慶応4年7月)	大雨	荒川洪水。大降雨で1860(安政7年)にご入用普請した場所は残らず押し払い川縁り数百mの民家が流出、田畑石砂被害。高荷彦平家文書 86	無
1889 (明治22年8月)	大暴風雨	利根川・荒川決壊25か所・死者161名・家屋流出72個…県内 田中地域では全村の過半数の耕地が浸水…武川村	無
1896 (明治29年9月)	暴風雨	耕地被害 田29町歩・畑235町歩・浸水27軒	無
1910 (明治43年8月)	暴風雨	死者324名・流出家屋1679戸・浸水家屋8453戸/県内、死者3名・床上床下浸水20戸・田畑流出埋没3町7反・護岸流出決壊1,300m/武川村	無

\*被害状況については川本町史 通史編 平成元年10月31日発行より抜粋

旧吹上町(現鴻巣市)における水害・土砂災害年表

発生年月	台風名称等	被害状況	痕跡等の有無とNO
1742 (寛保2年)	長雨	大洪水。稲作、畑作とも水腐れで全滅	無
1780 (安永9年6月)	大雨	6月の大雨で小谷の守備範囲だけで、荒川堤防2か所が押し切られる。前砂村に係する中山道702間(約1271m)が道路基盤まで洗われ、通行に差し支える。	無
1791 (寛政3年8月)	大雨	石原、久下その他いたる所で荒川が決壊し、前砂地内の中山道約400mが、道路基盤まで洗い流された。前砂村58軒中3軒が潰れ、6軒が倒れかけ、床上浸水(30~100cm)が44件の被害となった。	無

1802 (享和 2 年)	大雨	荊原で堤防が、60 間(約 109m)決壊。荊原、榎戸、新宿で 13 戸流出。行方不明 2 名	無
1824 (文政 7 年 7 月)	長雨	荒川洪水。農作物の水腐れ。大芦村よりの明用村で堤防が決壊し、長池ができる。	有 NO. 4-2
1859 (安政 6 年 7 月)	大雨	荒川洪水。熊谷堤防決壊	無
1890 (明治 23 年 8 月)	台風	荒川洪水 小谷村で浸水 12 戸、田畑 126 町冠水 吹上村で浸水 4 戸、田畑 99 町冠水 下忍村で浸水 351 戸、田畑 539 町冠水	無
1898 (明治 31 年 9 月)	大雨	荒川洪水。小谷村で浸水 8 戸、田畑 126 町 1 反冠水。吹上村で浸水 2 戸、田畑 319 町 8 反冠水 下忍村で浸水 36 戸、田畑 224 町冠水	無
1910 (明治 43 年 8 月)	台風等	利根川、荒川大洪水。利根川支川の福川堤防の決壊により、吹上村、小谷村、下忍村が浸水	無
1947 (昭和 22 年 9 月)	カスリーン台風	久下で堤防決壊。小谷村で浸水 392 戸、田畑 179 町冠水。吹上村で浸水 490 戸、田畑 173 町冠水	無
1966 (昭和 41 年 6 月)	台風 4 号	吹上(荊原・大芦)の荒川堤防崩壊。吹上町に、災害対策本部が設置された。吹上町で浸水家屋 199 戸、田畑 570ha 冠水	無
1966 (昭和 41 年 9 月)	台風 26 号	吹上町で、家屋全壊 12 戸、半壊 61 戸	無
2007 (平成 19 年)	台風 9 号	荒川の熊谷水位観測所で氾濫危険水位を超え、観測開始以来の最高水位を観測した。 鴻巣市・吉見町間で川幅いっぱい増水。	無

典資料名：出典資料名：鴻巣市地域防災計画、吹上町史、吹上郷土読本

旧川里町(現鴻巣市)における水害・土砂災害年表

発生年月	台風名称等	被害状況	痕跡等の有無と NO
1742 (寛保 2 年 8 月)	長雨	関東で大洪水が起こり、利根川や荒川が氾濫。広範囲に甚大な被害をもたらした。広田村では食料がなく、多少の麦なども全て水腐りとなった。	無
1757 (宝暦 7 年) 1766 (明和 3 年) 1791 (寛政 3 年) 1793 (寛政 5 年) 1802 (享和 2 年)	長雨	関東各地で被害が出ている。特に宝暦 7 年の時は関東一円に被害が及び、享和 2 年にも権現堂川や古利根川の堤防が決壊して大洪水をもたらした。これらの水害は川里地域にも及んでいる。	無
1808 (文化 5 年 6 月)	長雨	関新田村の新堀下・深田通り・中田通りの稲作が水没した。	無
1828 (文政 11 年) 1829 (文政 12 年)	長雨 長雨	上会下村新田と郷地村新田は夏の大水により、稲作新田 118 石余りが総て不作となった。 大雨で稲作が水中にて発芽してしまい不作となった	無
1833 (天保 4 年 9 月) 1834 (天保 5 年 8 月)	大風雨	北根村では大雨風にて田畑の被害があった。 広田村下分では大風雨にて田畑の被害があった。	無

1890 (明治 23 年 8 月)	台風	利根川が北埼玉郡須加村(行田市)などで、荒川が大里郡吉見村などで決壊。川里地域では死傷者こそいなかったものの、屈巢村が浸水家屋 254 戸、広田村が同 252 戸・倒壊 9 戸、共和村が浸水家屋 2930 戸と被害戸数は三村の全戸数の 78%。田畑の被害面積も屈巢村が 382 町余、広田村が 357 町余、共和村が 376 町余に上った。	無
1910 (明治 43 年 8 月)	台風	この水害は、埼玉県近代史最大の水害となった。広田村は戸数 407 戸のうち 395 戸が浸水し、共和村は全戸数が床上浸水し、家財の流出は計算できないほどであった。浸水した日数が長かったため、貯蓄されていた食糧・家財の大部分は腐敗した。	無
1947 (昭和 22 年 9 月)	カスリーン台風	この台風により北葛飾郡では全域冠水被害となるなど県内で甚大な被害が出た。屈巢村・広田村・共和村は、ほとんど田畑が冠水した。	無

出典資料名：川里町史・川里村史・川里町史資料編・川里村史資料編

上尾市における水害・土砂災害年表

発生年月	台風名称等	被害状況	痕跡等の有無と NO
1890 (明治 23 年 8 月)	暴風雨	利根川、見沼用水、元荒川、古利根川、各河川は洪水となり、被害が続出。北埼玉郡中須加村中条(現行田市)の堤防が 59 間(107m)決壊し、その濁水が見沼用水に流入。関戸(現蓮田市)の五庵堤が破堤。瓦葺村(現上尾市)床床上浸水 1 戸水田 25 町歩、原市町(現上尾市)では水田 38 歩、上平村(現上尾市)でも田 125 町歩が冠水。荒川では上尾市の被害なし。	無
1910 (明治 43 年 8 月)	暴風雨	平方村では同行会会員 180 余人が小舟に乗って罹災者を訪問。上尾町でも、荒川や鴨川の溢水。見沼用水では掛樋が破損、瓦葺村でも元荒川の堤防決壊により広範囲にわたる水田の冠水。北足立郡役所では各町村長に農作物の種子の無料供与、浦和税務署においては収穫皆無となったものに対しては地租の免除。	NO. 4-3
1938 (昭和 13 年 7 月)	豪雨	連日続いた豪雨により、荒川は急激に増水した。河川敷内には濁流が充満し、床上水害家屋もでた。	無
1941 (昭和 16 年 7 月)	長雨	指扇駅付近では川越線のレールが宙ずり。大石村(現上尾市)で 1 人水死。	無
1947 (昭和 22 年 9 月)	カスリーン台風	堤外の耕地は約 30ha が泥土に埋まり桑畑は全滅して膨大な被害を受けた。	無

出典資料名； 上尾百年史 上尾百年史編集委員会 上尾市役所 S47.2

桶川市における水害・土砂災害年表

発生年月	台風名称等	被害状況	痕跡等の有無と NO
1631 (寛永 8 年) 1637 (寛永 14 年)	大風雨	利根川満水(竜淵寺年代記)(桶川) 荒川増水(徳川実記) 年貢割付け状有	無

1741 (寛保元年)	大風雨	荒川石原堤破る (熊谷市史)	無
1742 (寛保2年)		関東大洪水、綾瀬川・元荒川(伊奈町) 被害甚大 武江年表	
1766 (明和3年)	大雨	利根川決壊南大桑、鷲宮等親水(松村家日記) 元荒川・綾瀬川の滞流の頻発	無
1783 (天明3年)	大雨	利根川・荒川破堤洪水、水損検見引 手伝普請	無
1786 (天明6年)		関東大洪水、利根川綾瀬川等決壊(武江年表、実記)	
1791 (寛政3年)	大雨	関東大風雨、関東筋全て洪水(武江年表) 荒川筋久下村破堤 (熊谷市史)	無
1823 (文政6年)	大雨	備前堤越水破堤 (加藤家・篠塚家文書)	無
1840 (天保11年)	大雨	入間川通出丸中郷破堤(鈴木家文書) 上中条、上川俣堤押切(羽生市史)	無
1849 (嘉永2年)	大雨	荒川熊谷辺出水(熊谷市史)	無
1859 (安政6年)	大雨	大風雨利根川・荒川・越辺川雑炊、破堤、備前堤破堤(熊谷市史、羽生市史、行田市史等)	無
1890 (明治23年)	豪雨・台風	水害 8月上旬より飴多く、22日の風雨により 23日洪水となる。その後30日に台風が被害を 拡大埼玉県内でも死者等被害が多数	無
1907 (明治40年)	台風	2語の台風により県下一帯に大洪水発生。秩父 郡下での家屋流出に始まり、大里郡大麻生村で 荒川の決壊死傷者ほか多く被害が出る	無
1910 (明治43年)	台風	水害 死傷者 2116(全国) 利根川・荒川堤防 決壊 400か所以上 関東平野で広く浸水。明治 最大の洪水被害は死傷者ほか、甚大な被害	無
1947 (昭和22年)	カスリーン台風	関東に甚大な被害。死傷者 3681(全国)荒川筋 では氾濫流は元荒川に沿って東南流して、桶川 市小針領家に至って元荒川河道に飲み込まれ た	無
1958 (昭和33年)	狩野川台風	赤堀川浸水(桶川) 伊豆半島狩野川流域に甚 大な被害	無
1966 (昭和41年)	台風26号	県内一円で被害多数 秩父地方を中心に被害 が集中死者等多数出た	無

検見:実際に収穫高を見分してその程度に応じて年貢高を決める。年貢割付状:江戸時代領主が毎年秋に年貢高を村方に通知する文書。災害等により減免がある。各市町村史に記録が多く残されている。  
武江年表:「武蔵国江戸」の意で市井の出来事が徳川家康が江戸に入った年から明治6年までまとめられている。

出典資料名:桶川市史第1巻通史編 桶川市 H2.3、桶川市史第5巻近代現代資料編 桶川市 H2.3、桶川地域防災計画 桶川市防災会議 H27.2、新編埼玉県史資料編13近世4治水 埼玉県 S58.3

#### 伊奈町における水害・土砂災害年表

発生年月	台風名称等	被害状況	痕跡等の有無とNO
1742 (寛保2年)	大雨	関東大洪水(武江年表、大水記、松村家日記)綾瀬川・元荒川(伊奈町)被害甚大	無
1757 (宝暦7年)	大雨	荒川・利根川洪水、権現堂川決壊(武江年表)備前堤切所(伊奈町) 大名手伝普請資料	無

1766 (明和 3 年)	大雨	利根川決壊南大桑、鷲宮等親水(松村家日記)元荒川・綾瀬川の滞流の頻発大名手伝普請資料	無
1781 (天明元年)	大雨	元荒川、綾瀬川の滞流頻発、宇和島藩による大名手伝普請	無
1783 (天明 3 年) 1786 (天明 6 年)	大雨	関東大風雨、利根川・荒川破堤大洪水(松村家日記)関東大洪水(武江年表、実記)大名手伝普請資料	無
1910 (明治 43 年)	大雨	江戸期以降記録に残る大水害で埼玉県内の被害も甚大。伊奈町での被害記録は見いだせず	無
1947 (昭和 22 年)	カスリーン台風	利根川荒川が各所で決壊し関東全域で被害が多く出たが伊奈町での被害は見いだせず	無

伊奈町は、大宮台地上にあり、比較的高い地盤上に町域がある為平成 26 年までの間でも災害の記録は少ない。江戸時代慶長年間にかけて築造された備前提の下流部になり蓮田市とともに水害からは守られてきた。しかし上流となる桶川市域を含む上流部では大雨のたびに田畑が水につきりその被害は近年まで続いた。

出典資料:伊奈町史通史編 I 原始・中世水害の始まり 伊奈町教育委員会 伊奈町 H15.3、水害統計調査 S39～H24 伊奈町関係「国土交通省」

北本市における水害・土砂災害年表

発生年月	台風名称等	被害状況	痕跡等の有無と NO
1742 (寛保 2 年 8 月)	長雨	利根川、荒川などで氾濫。下石戸上村で浸水	無
1767 (明和 4 年 5 月)	大雨	出水のため、土手坎樋外大破	無
1852 (嘉永 5 年)	大雨	荒川で大出水	無
1890 (明治 23 年 8 月)	台風	中丸村で浸水 2 戸、田畑 48 町が冠水 石戸村で浸水 2 戸、田畑 108 町が冠水	無
1906 (明治 39 年 7 月)	豪雨	荒川で出水。渡船が中止され、橋梁が撤去される。	無
1910 (明治 43 年 7 月)	南東気流による大雨	石戸村で浸水。耕地 130 町が冠水	無
1910 (明治 43 年 8 月)	台風、前線による大雨	明治期最大の水害。石戸村で破堤 北足立西部から川口市方面まで浸水	無
1914 (大正 3 年 8 月)	暴風雨	荒川堤防決壊のため、石戸村に大きな被害	無
1920 (大正 9 年 5 月)	豪雨	豪雨による出水のため石戸村の 83 町が浸水	無
1938 (昭和 13 年 9 月)	大雨	荒川の洪水。荒井橋(木製、冠水橋)が流出	有 NO. 4-4
1947 (昭和 22 年 9 月)	カスリーン台風	北本宿村で、死者 1 名、浸水 9 戸。田畑の冠水 117.6 町の被害	無
1959 (昭和 34 年 9 月)	伊勢湾台風	倒壊 1 戸、死傷者 3 名	無
1966 (昭和 41 年 6 月)	台風 4 号	台風 4 号により、浸水 267 戸 田畑の冠水 230ha の被害	無
1966 (昭和 41 年 9 月)	台風 26 号	浸水 11 戸、破損 313 戸 田畑の冠水 368ha	無
1971 (昭和 46 年 8 月)	台風 23 号	台風 23 号の影響で、田畑や高尾橋、荒井橋等が冠水し、被害が続出した。	無

1981 (昭和 56 年 8 月)	台風 15 号	荒川が氾濫し、高尾橋や荒井橋が冠水	無
1983 (昭和 58 年)	台風 5 号 ・6 号	降雨により荒川が増水し、高尾橋が冠水	無
1985 (昭和 60 年)	台風 6 号	降雨により荒川が増水し、高尾橋が冠水	無
1999 (平成 11 年)	熱低による大雨	降雨により、朝日地内で浸水 5 戸 水田、畑 9.5ha が冠水	無
2007 (平成 19 年)	台風 9 号	降雨により荒川が増水し、高尾橋が冠水	無

出典資料名：北本市史総年表、北本市史 北本市教育委員会 H6.3、荒川人文Ⅲ 埼玉県 S62.3、  
北本市地域防災計画

本庄市における水害・土砂災害年表

発生年月	台風名称等	被害状況	痕跡等の有無と NO
1947 (昭和 22 年 9 月)	カスリーン台風	共和 浸水 426 戸 死傷者 3 人 田畑冠水 157 町。 児玉 浸水 311 戸 破壊 1 戸 田畑冠水 79 町 5 反。 金星 浸水 100 戸 流失 2 戸 田畑冠水 115 町 3 反。 本泉 浸水 100 戸 流破壊 2 戸 負傷者 10 人 田畑冠水 19 町 3 反。秋平 浸水 170 戸 田畑冠水 55 町 5 反	無
1953 (昭和 28 年 9 月)	台風 13 号	共和 破壊 1 戸 秋平 破壊 1 戸	無
1966 (昭和 41 年 6 月)	台風 4 号	旧本庄市 浸水床下 5 戸 田畑冠水 245ha 旧児玉町 浸水 9 戸 田畑冠水 310ha	無
1966 (昭和 41 年 10 月)	台風 26 号	旧本庄市 浸水床下 42 戸 死傷者 15 人建物破壊 6,689 戸。 旧児玉町 浸水床上 13 戸 床下 237 戸 死傷者 17 人建物破壊 248 戸	無
1982 (昭和 57 年 8 月)	台風 10 号	旧本庄市 浸水床下 400 戸 建物破壊 76 戸 田畑冠水 600h a 橋梁流失 6 橋。旧児玉町 浸水床上 36 戸 床下 384 戸田畑冠水 358ha	無
1982 (昭和 57 年 9 月)	台風 18 号	旧本庄市 浸水床上 15 戸 床下 600 戸 堤防損壊 24 箇所 田畑冠水 50h a	無
1989 (平成元年 8 月)	集中豪雨	旧本庄市 浸水 床上 26 戸 床下 127 戸	無
1995 (平成 7 年 6 月)	大雨	旧本庄市 橋梁流失 1 橋 負傷者 2 人	無
1997 (平成 9 年 8 月)	集中豪雨	旧本庄市 浸水 床上 4 戸 床下 59 戸	無
1998.9.16 (平成 10 年)	台風 5 号	旧本庄市 浸水 床上 2 戸 床下 9 戸 田畑冠水 334h a	無
2007 (平成 19 年 9 月)	台風 9 号	本庄地域 浸水 床下 1 戸。児玉地域 浸水床下 1 戸 河川堤防決壊 3 箇所 崖崩れ 11 箇所 道路冠水 3 箇所 避難者 10 人	無
2011 (平成 23 年 9 月)	台風 12 号	本庄地域 浸水床上 4 戸 床下 43 戸。児玉地域 浸水床上 5 戸 床下 8 戸 崖崩れ 3 箇所 橋梁流失 1 橋 避難者 22 人	無

児玉町における水害・土砂災害年表

発生年月	台風名称等	被害状況	痕跡等の有無とNO
1947 (昭和22年9月)	カスリーン台風	共和 浸水426戸 死傷者3人 田畑冠水157町。 児玉 浸水311戸 破壊1戸 田畑冠水79町5反。 金星 浸水100戸 流失2戸 田畑冠水115町3反。 本泉 浸水100戸 流破壊2戸 負傷者10人。 田畑冠水19町3反。秋平 浸水170戸 田畑冠水55町5反	無
1953 (昭和28年9月)	台風13号	共和 破壊1戸 秋平 破壊1戸	無
1966 (昭和41年10月)	台風26号	浸水床上13戸 床下237戸 死傷者17人 建物破壊248戸	無
1982 (昭和57年8月)	台風10号	浸水床上36戸 床下384戸 田畑冠水358ha	無
2007 (平成19年9月)	台風9号	浸水床下1戸 河川堤防決壊3箇所。崖崩れ11箇所 道路冠水3箇所 避難者10人	無
2011 (平成23年9月)	台風12号	浸水床上5戸 床下8戸 崖崩れ3箇所、 橋梁流失1橋 避難者22人	無

出典・本庄市地域防災計画（平成25年 本庄市）・児玉町史（自然編）

美里町における水害・土砂災害年表

発生年月	台風名称等	被害状況	痕跡等の有無とNO
1898 (明治31年6月)	大雨	松久、東児玉、大沢 地区浸水17戸 田畑152町2反	無
1908 (明治41年8月)	大雨	大沢地区 道路破壊2件 橋梁流失1件 松久地区 道路破壊1件 橋梁流失1件	無
1947 (昭和22年9月)	カスリーン台風	東児玉地区 浸水470戸 流失1戸 死傷者8人 田畑368町8反、松久地区 浸水1,019戸 破壊1戸 田畑167町2反、大沢地区 浸水100戸他	無
1953 (昭和28年9月)	台風第13号	大沢地区 破壊1戸、東児玉地区 浸水5戸	無
1966 (昭和41年6月)	台風第4号	浸水93戸 田畑306.6ha	無
1966 (昭和41年9月)	台風第26号	浸水243戸 破壊1,914戸 死者4人 田畑846.9ha	無
1982 (昭和57年8月)	台風第10号	—	無

参考資料； 美里町史 通史編 美里町史編纂委員会 S61

寄居町における水害・土砂災害年表

発生年月	台風名称等	被害状況	痕跡等の有無とNO
1742 (寛保2年8月)	大雨	長瀬町で荒川最大高水を記録。寄居町桜沢では人的被害無し。田の約50%、畑の約76%が流出	無
1783 (天明3年7月)	大雨	浅間山噴火。天明の飢饉	無
1791 (寛政3年9月)	大雨	雨が7日以上降り続き洪水となった。赤浜村柏田 稲荷一帯の畑が冠水	無
1799 (寛政11年8月)	台風	台風来襲により、小園で稲作被害。	無



1801 (享和元年8月)	台風	赤浜鎮守社が倒壊。昌国寺表門が損壊。	無
1830 (天保元年)	長雨	天保の飢饉。春から夏にかけて低温長雨、稲の出穂期に暴風となり収穫はほぼ全滅。	無
1859 (安政6年7月)	台風	小園で農家3軒が流出。赤浜で洞耕地一帯が冠水	無
1912 (明治45年9月)	台風	寄居署管内で家屋全壊41軒、半壊32軒、破損201軒、死者2名、負傷者2名。	無
1966 (昭和41年9月)	台風	家屋全壊57戸、半壊194戸、一部損壊1,788戸 全焼4戸、床上浸水15戸、床下浸水265戸 重傷者12人、軽傷者13人、罹災者10,370人	無
1991 (平成3年9月)	台風	農地浸水被害2か所、浸水面積14.9ha	無
1999 (平成11年8月)	熱帯低気圧	家屋半壊3戸、一部損壊1戸、床上浸水1戸、床下浸水8戸 罹災者9人 橋梁流出1箇所、堤防破堤12箇所、崖崩れ21	無

出典； 寄居町史 近世資料編 寄居町教育委員会 S58

神泉村(現神川町)における水害・土砂災害年表

発生年月	台風 名称等	被害 状況	痕跡等の有無とNO
1701 (元禄14年7月)	大雨	矢納村は上畑から屋敷地にいたるまでかなりの被害が生じ、後の年まで影響が出る。	無
1742 (寛保2年9月)	大雨	200～300mにわたり2.5～3mという厚さに土砂が流れ込んだ。	無
1824 (文政7年7月)	大雨	下阿久原村において、7月12日夜から風雨が激しく続き、それが15日には近年にない大出水となり、山崩れや道・橋などが破壊された。	無
1898 (明治31年9月)	大雨	若泉・浸水2戸、田畑3町6反	無
1910 (明治43年秋)	大雨	諸川氾濫堤防決潰し、家屋流亡して人畜死傷頗る多く上部橋亦流失	無
1913 (大正2年6月)	大雨	大洪水のため、上部橋流失、永久橋たる上部橋大正11年11月完成	有 NO.4-5
1947 (昭和22年9月)	カスリーン台風	若泉：田畑30町9反、矢納：田畑10町	無
1966 (昭和41年6・9月)	台風4号 台風29号	田畑5～28ha 破壊3戸、田畑18.7ha	無
1971 (昭和46年9月)	台風	県道太田部鬼石線が落石、土砂崩落により23日間交通止めとなる。	無
2007 (昭和46年9月)	台風9号	矢納地区町道3号線決壊、住宅2棟の倒壊、矢納簡易水道の断水等の被害	無

1956～1670年の75年間では、神泉に関係している可能性のある水害は24回の記録がある。24回の水害がすべて神泉に影響しているとは言い難いが、関東近辺に約3年に1回の割合で水害が発生していたことがわかる。※神泉村誌歴史編・神川町地域防災計画より抜粋 H11.3

上里町における水害・土砂災害年表

発生年月	台風 名称等	被害 状況	痕跡等の有無とNO
1713～1863	大雨	42回の大満水、出水、押切、水押の記録が確認	無

(正徳3年～文久3年)		できる。	
1742 (寛保2年7月)	大雨	7月27日～8月2日まで大雨・強風。忍保村では烏川が氾濫し石砂埋。勅使河原村では神流川中山道渡し場の仮橋が流出。	有 NO. 4-6
1791 (寛政3年8月)	大雨	神流川・烏川が大満水となり、金久保村・黛村・忍保村の田畑が亡所となった。金久保村の北側に新しい川瀬ができ、田畑30町歩が流出。	
1846 (弘化3年7月)	大雨	6月16日に勅使河原村矢田で神流川が氾濫。7月7日に堤防決壊。勅使河原村の民家4～5軒が流出。黛村・忍保村で民家の床上4～5尺(約120～150cm)余り水が押し上がる。神流川と烏川の合流地の昆沙吐村は60軒の内27軒が流出。残った3軒も潰れた。	
1859 (安政6年7月)	大雨	7月25日に神流川が決壊。田畑2町余りが亡所。忍保川へ本瀬の水が押し入り、流域の1宿19ヶ村が水腐となる。烏川も氾濫し、人家の床上3～4尺(約90～120cm)余り水が押し上がる。八町河原稲荷神社は別当とも流出	
1910 (明治43年)	大雨	神流川、烏川の氾濫により黛村、忍保村、八町河原村が甚大な被害。	
1947 (昭和22年)	カスリーン台風	神流川、烏川の氾濫。	
1959 (昭和34年)	伊勢湾台風	神流川、烏川の氾濫。	

出典； 上里町史 通史編 上里町史編集専門委員会編 H10

神川町における水害・土砂災害年表

発生年月	台風 名称等	被害 状況	痕跡等の有無とNO
1742 (寛保2年7月)	大雨	神流川満水となり川除押崩し家屋流出などの被害がでる。神流川の増水によって四軒在家村の田畑流される。	無
1783 (天明3年)	噴火	浅間山の噴火により農作物などに被害が出る。	無
1807 (文化4年)	大雨	神流川などで堤防を壊す。	無
1885 (明治18年)	暴風雨	諸川あふれ堤防決壊など大きな被害が出る	無
1894 (明治27年)	大雨	神流川出水に伴い橋が流された。	無
1898 (明治31年)	暴風雨	神川でも民家への浸水や田畑の冠水などとなる。	無
1910 (明治43年)	大雨	大水害が発生し、青柳及び丹荘地区で死者や家屋流出などが発生。	無
1947 (昭和22年)	カスリーン台風	浸水などの被害が出る。	無
1966 (昭和41年)	台風4号 台風26号	浸水、死傷者13人など被害をもたらす。	無
1982年 (昭和57年)	台風10号	農作物に大きな被害	無

出典； 神川町史 神川町史編纂委員会 S64. 3

花園町(現深谷市)における水害・土砂災害年表

発生年月	台風名称等	被害状況	痕跡等の有無とNO
1890 (明治23年8月)	豪雨	黒田下川端の桑園が3町歩余り流出	無
1910 (明治43年8月)	豪雨	荒川の黒田・永田地区の河岸はかなり欠け落ちたが、本村は高い段丘上にあるため農地・人家の被害はなし。	無
1966 (昭和41年9月)	台風26号	全壊82戸・半壊58戸・部分破壊773戸	無

\*被害状況については花園町史より抜粋

熊谷市における水害・土砂災害年表

発生年月	台風名称等	被害状況	痕跡等の有無とNO
1623 (元和9年)	大雨	荒川大洪水、熊谷西堤決かい、この時、石上寺が流失した。星溪園の池ができる。	有 NO.4-7
1723 (享保8年8月)	大雨	利根川は荒宿堤を越水し、善ヶ島は600間押し切られた。成田・上川上方面も被害が甚だしかった。	無
1742 (寛保2年8月)	大雨	石原村堤、石上寺裏堤、久山寺前提等4か所が決壊、熊谷寺門前南側を押し流して、鎌倉町から筑波町そして箱田村の方へ流れた。利根川の濁流は荒川の水と合流し、更に水勢を増し、忍城及び屋敷町までを襲った。	無
1757 (宝暦7年5月)	大雨	4月下旬からの大雨で、いわゆる地水(低地に集まり排水できなくなった時に起きる)で、上川上村は5月1日の夜中に洪水に襲われ、29軒が浸水した。66人が救助された。	無
1791 (寛政3年8月)	大雨	荒川通り菅沼村新堤が残らず切られ、石原村、熊谷宿、久下村堤数か所を押し切った。利根川筋も四方寺、上中条堤が押し切られた。	無
1859 (安政6年7月)	大雨	いわゆる「 <sup>ひつじ</sup> 未年の大水」と称して今なお古老が語りつたえている。菅沼村、広瀬、熊谷南、久下東竹院、久下長土手、大曲等が決壊、濁水が宿内に入り、流失家屋88軒、潰家19軒で、筑波町会所に1.1m位浸水。	有 NO.4-8
1867 (慶応3年7月)	大雨	百間出し築堤(荒川の西方に防水堤として作る)上石原六十部付近決壊。堤外並びに田畑一面の水溢れる。	無
1868 (明治元年)	大雨	荒川の満水によって堤防数か所が決壊した。対岸玉作(旧大里村)では、堤792m程崩壊した。農民は生活に困り、維新の混乱期であったので暴挙も起きた。	無
1890 (明治23年8月)	大雨	22日～23日両日、利根川・荒川の両川が満水して出水となり、これが未だ減退せぬ中に、30日になって暴風雨となり、大きな被害を受けた。	無
1907 (明治40年8月)	大雨	8月中、連日の降雨で諸川が増水し、21日には暴風雨となり、24日ついに洪水になった。佐谷田村及び石原地先の堤防が遂に決壊した。	無

1910 (明治 43 年 8 月)	大雨	1 日から雨が続き、9 日～11 日の朝までの豪雨で荒川が増水し、10 日には大麻生の堤防が決壊した。また利根川筋では、各地の堤防が崩壊し洪水となり当地方一帯を水浸した。明治以降荒川最大の出水。	無
1913 (大正 2 年 8 月)	大雨	百間出し及び大麻生地内の 9 か所の堤防が決壊家屋流失の被害あり。	無
1914 (大正 3 年 8 月)	大雨	荒川大橋の中央部 (136m) 流失。	無
1921 (大正 10 年 10 月)	大雨	10 月初め頃から連日の雨で荒川が氾濫し 10 日になって荒川大橋が 140m 流失した。	無
1938 (昭和 13 年 9 月)	大雨	荒川地区 (当時の堤外) 全域が浸水する。	無
1947 (昭和 22 年 9 月)	カスリーン台風	カスリーン台風は猛威をふるいつつ 15 日夜半に房総半島南方に上陸した。各地測候所開設以来の降雨量を示したため、荒川地先、久下では 100m にわたり大決壊となり、各方面で甚大な被害があった。熊谷雨量で 338mm を記録。	有 NO. 4-9
1966 (昭和 41 年 6 月)	台風 4 号	床上浸水 29 戸。	無
1966 (昭和 41 年 9 月)	台風 26 号	死者 1 名、負傷者 6 名、家屋全壊 39 戸、家屋半壊 222 戸。	無
1982 (昭和 57 年 9 月)	台風 18 号	家屋半壊 1 戸、床上浸水 115 戸、橋梁流失 3 か所	無
1991 (平成 3 年 8 月)	台風 12 号	床上浸水 17 戸、橋梁流失 2 か所。	無
2011 (平成 23 年 9 月)	台風 12 号	死者 1 名、床上浸水 5 戸。	無
2013 (平成 25 年 9 月)	台風 18 号	竜巻に伴う、中傷者 1 名、住家全壊 10 棟、半壊 23 棟。	無

熊谷市史 S38. 4、熊谷市史 (通史編) 熊谷市教育委員会 S59. 8

熊谷市地域防災計画 H27. 8

大里町(現熊谷市)における水害・土砂災害年表

発生年月	台風名称等	被害状況	痕跡等の有無と NO
1701 (元禄 14 年 7 月)	大風雨	荒川、和田吉野川が大風雨によって増水し、津田新田の堤が破堤し横手堤から水が流れ込んだ。津田村、向谷村等土砂が堆積し水田が変じて畑になった。	無
1721 (享保 6 年)	大雨	横手堤が決潰。	無
1731 (享保 16 年)	大雨	横手堤が決潰。	無
1742 (寛保 2 年 8 月)	大風雨	この洪水は荒川のみならず、利根川、入間川など諸河川が氾濫した未曾有の洪水であったが、大里郡一円が浸水、例えば玉作村では溺死者 27 名を出した。	無
1772 (安永元年 8 月)	大雨	荒川が増水で大里・比企両郡が被害を受けたが、この時は、荒川堤及び和田吉野川二重堤が決潰した結果であった。	無

1781 (天明元年 7月)	大雨	荒川、市野川が出水した時は、津田新田の堤が破られた。	無
1783 (天明 3年)	大雨	108 間押し切り破堤。	無
1786 (天明 6年)	大雨	30 間が破堤。	無
1791 (寛政 3年 8月)	大雨	荒川、市野川が出水した際は、村岡・小泉・玉作村の堤が決潰し、横手堤も破られた。 小八つ林村で 17 軒及び寺・御堂が流失した。	無
1792 (寛政 4年)	大雨	相上村の堤や横手堤が破られる。	無
1793 (寛政 5年)	大雨	手島村・小泉村・津田新田・玉作村の堤防及び横手堤が破られた。	無
1802 (享和 2年)	大雨	手島村・津田新田・相上村・玉作村で破堤し、横手堤も決潰した。	無
1824 (文政 7年)	大雨	恩田村・屈戸村付近は床上 1 間の浸水で、この時玉作村地内で堤防が 9 か所決潰したが、さらに文政年間から天保初年にかけて、しばしば和田吉野川の溢水が相上・玉作両村の堤を破り浸水した。	無
1859 (安政 6年)	大雨	荒川・和田吉野川の増溢水で手島村内の堤、玉作村の堤及び横手堤が潰破して被害を受けた。	有 N04-8
1868 (慶応 4年)	大雨	玉作村で堤が 40 間余破れ 6 戸流失するなどの被害を出した。農民は生活に困り、暴挙も起きた。	無
1890 (明治 23年 8月)	大雨	利根川・荒川の両川が満水して出水となり熊谷町（左岸側）の堤防もまさに決壊しようとしたが、右岸が決壊したため、旧大里村が被害を被った。	無
1910 (明治 43年 8月)	大雨	8 月初めより降雨が続いたが、10 日には暴風雨となった荒川筋の堤防はほとんど溢水の状態。手島で 87 間、手島小泉入会で 85 間、玉作で 45 間堤防が決壊した。流入した濁水は旧横見郡一円にまで氾濫し一面の泥海となった。和田吉野川の堤は水没して見えなくなり、玉作の流失家屋 15 戸、水死者 16 人とつたえている。	無
1912 (大正 2年)	大雨	この出水にあたって、人的被害をまぬがれようとして、集落から離れた地点の堤防を人為的に切断する事件が起き、その首謀者は国有物破損で処罰された（溢水事件）。	無
1938 (昭和 13年 9月)	大雨	関東南部を台風が直撃、風雨とももともと激しく、市田村では荒川南岸堤防、玉作樋にいたる部分 6 か所、あわせて約 200 が決壊した。濁流に直撃された市田村では、17 戸が流出、逃げ遅れた 37 名が死亡した。昭和 13年の大水害	無
1966 (昭和 41年 6月)	大雨	床上浸水 60 戸。	無
1966 (昭和 41年 9月)	台風 26 号	家屋全壊 13 戸、家屋半壊 51 戸。	無
1982 (昭和 57年 9月)	台風 18 号	床上浸水 28 戸。	無

大里村の歴史 s60. 11 月発行、近代大里村のあゆみ、熊谷市史（通史編）S59. 8 月、熊谷市地域防災計画 H27. 8

江南町(現熊谷市)における水害・土砂災害年表

発生年月	台風名称等	被害状況	痕跡等の有無とNO
1701 (元禄14年7月)	大雨	荒川洪水となり大里郡津田新田破堤する。	無
1721 (享保6年)	大雨	荒川満水にて吉見堰大破する。	無
1731 (享保16年8月)	大雨	荒川増水。御正堰大破し用水路埋没する。	無
1742 (寛保2年8月)	大雨	荒川大洪水。御正堰大破。用水路埋没。	無
1753 (宝暦3年8月)	大雨	荒川増水、瀬変わりとなる。	無
1772 (安永元年8月)	大雨	関東大風雨、大里・比企郡の荒川提及び和田吉野川二重堤が決潰する。	無
1774 (安永3年9月)	大雨	大風雨で荒川・市野川が出水し逆水が押し込み堤外の田畑・堤内窪の田畑がともに冠水する。	無
1781 (天明元年7月)	大雨	大風雨のため荒川・市野川が大出水となり、大囲堤や畑囲堤が総越し、切所ができて用水堀が埋まる。	無
1783 (天明3年6月)	大雨	大雨により荒川・利根川が破堤し大洪水となる鳥井沼の押堀ができる。	無
1786 (天明6年7月)	大雨	大風雨、比企郡中曾根地頭方・一ツ木・北下沙・荒子村で破堤。	無
1791 (寛政3年8月)	大雨	大風雨。荒川が洪水となり大里郡久下堤が押し切られる。	無
1792 (寛政4年7月)	大雨	和田吉野川通りの大里郡吉見村の相上地内で3か所破堤。	無
1793 (寛政5年7月)	大雨	荒川出水樋口村浸水する。	無
1799 (寛政11年8月)	大雨	大雨。市野川満水で、久保田村地内の大囲堤を越える。	無
1802 (享和2年7月)	大風雨	大風雨のため荒川堤防各地で破堤する。大里郡手島村津田新田・相上村・玉作村・横手堤が破堤、水死1人。	無
1811 (文化8年8月)	大風雨	大風雨、荒川出水し比企郡出丸下郷の五六橋樋管流出する。	無
1859 (安政6年7月)	大雨	大洪水で荒川・利根川など堤防が各所で決壊、町域に被害が出る。大里郡小園村で農家3戸流失、本畠村で流失家屋10余軒、溺死者4人、熊谷宿久下で88戸流出。	有 NO 4-8
1890 (明治23年8月)	暴風雨	暴風雨洪水。荒川では支川も含め125か所が破堤する。県域の被害も大。	無
1910 (明治43年8月)	大風雨	大風雨ため荒川・利根川氾濫。各地で大水害となり、押切・樋春で破堤・浸水する。	無
1921 (大正10年10月)	大雨	荒川氾濫、熊谷荒川大橋が流失する。	無
1938 (昭和13年9月)	大風雨	大風雨で荒川出水。市田堤決潰する。	無
1966 (昭和41年6月)	台風4号	台風4号により、浸水家屋69戸。	無

1947 (昭和 22 年 9 月)	カスリーン台風	カスリーン台風襲来により御正村では、全世帯の 43.3%が床上・下の浸水被害を受け、小原村では陸稲作付面積の 82%に被害があり。御正村では、稲作の 5 割以上の被害が 72%に達す。3 日間の熊谷雨量は 338mm。	有 N04-9
1948 (昭和 23 年 9 月)	アイオン台風	アイオン台風襲来。荒川洪水。	無
1950 (昭和 25 年 9 月)	ジェーン台風	ジェーン台風の影響で押切橋流失。	無
1958 (昭和 33 年 9 月)	台風 17 号	台風 17 号により溜池堤 5 か所決壊。水路、田畑等に被害大。	無
1974 (昭和 49 年 9 月)	大雨	大雨で荒川増水、押切橋が陥没し橋梁外れる。	無
1982 (昭和 57 年 8 月)	台風 10 号	台風 10 号で押切冠水橋流失。	無
1982 (昭和 57 年 9 月)	台風 18 号	台風 18 号で村では、浸水家屋 238 戸。	無

江南町史 江南町史編纂委員会 H16.3 月、熊谷市地域防災計画 H27.8 月

妻沼町(現熊谷市)における水害・土砂災害年表

発生年月	台風名称等	被害状況	痕跡等の有無と NO
1723 (享保 8 年 8 月)	大風雨	利根川は、善ヶ島堤 600 間押し切られる。	無
1727 (享保 12 年 7 月)	大風雨	江戸幕府以来の出水・江袋溜井堤 190 間決壊。	無
1736 (元文元年 8 月)	大風雨	利根川増水・上中条堤は箕の輪～四方寺まで破堤。	無
1742 (寛保 2 年 8 月)	大風雨	利根川など諸川大氾濫、各地に被害が続出した。	無
1783 (天明 3 年 7 月)	浅間山噴火	浅間山大噴火と妻沼地方の被害。(降灰砂)	無
1786 (天明 6 年 7 月)	大雨	古今未曾有の大洪水、利根川筋所々決壊 水害。	無
1823 (文政 6 年 6 月)	梅雨	荒川満水破堤数か所、利根川筋も破堤、田畑冠水。	無
1859 (安政 6 年 7 月)	大風雨	利根川堤忍領河原村にて 840～850 間決壊。	有 NO 4-8
1868 (慶応 4 年 4～6 月)	梅雨	5 月、利根川洪水、沿岸の田畑冠水、冷害もあり。	無
1870 (明治 3 年)	大風雨	利根川出水、終日風雨、家屋の損失あり。	無
1882 (明治 15 年 9 月)	暴風雨	午後 1 時、利根川氾濫して堤防決壊。	無
1885 (明治 18 年 7 月)	大風雨	利根川・荒川破堤多く、水害多数、田畑被害甚大。	無
1890 (明治 23 年 8 月)	暴風雨	23 日、利根川堤防 251 か所破られる。	無
1891 (明治 24 年 6 月)	大雨	21 日午後風雨強まり、利根川堤防 12 か所破損。	無
1894 (明治 27 年 8 月)	暴風雨	9 日より風雨強まり、利根川堤防外各河川堤破損。	無

1900 (明治 33 年 9 月)	暴風雨 (台風)	風雨強く、県内には死者 1 名、家屋倒壊 36 戸の被害。	無
1907 (明治 40 年 8 月)	大雨 (台風)	利根川が氾濫し、旧妻沼町全域が浸水被害。	無
1910 (明治 43 年 8 月)	大雨 (台風)	この地方では、古近未曾有の大洪水となった。その模様は「妻沼村の大洪水状況」の資料に記載してある。	無
1917 (大正 6 年 6 月)	雷雨・降ひょう・突風	利根川を渡って南下してきた大雷雨あり、中条村を中心に大降 <sup>ひょう</sup> 雷があった。加えて強い突風もあり居宅 7 戸が倒壊農作物はほとんどが全滅。	無
1935 (昭和 10 年 9 月)	大雨(台風・前線)	24 日からの大雨で利根川は増水し、妻沼地内に設置の水量は 6.6m を記録し、妻沼大橋 (木橋) が約 80m 流失した。	無
1947 (昭和 22 年 9 月)	カスリーン台風	利根川では栗橋付近の堤防が決壊し、明治 43 年以來の大洪水となった。幸いにして妻沼方面の堤防は決壊を免れ、冠水被害だけで終わった。	有 NO 4-9
1949 (昭和 24 年 9 月)	キテイ台風	古戸 (妻沼) 観測所最高水位 5.95m。	無
1957 (昭和 33 年 9 月)	台風 22 号	台風 22 号の大雨によって町内用排水路は氾濫し、住家等に浸水した。特に小島地区では、早川の堤防が決壊し洪水となった。床上浸水家屋は 95 戸で長い家では 3 日間も浸水した。	無
1959 (昭和 34 年 9 月)	台風 15 号	台風 15 号は風台風で、住宅の倒壊 3、非住家の倒壊 14、屋根小屋共飛ばされたもの数十棟、農作物の被害も甚大であった。	無
1966 (昭和 41 年 6 月)	台風 4 号	妻沼町では、福川をはじめ各排水路は溢水し濁水は町全域の水田を没した。田畑では 1,156ha、床上浸水 102 戸、堤防の決壊 3 か所、橋の流失 1 という近年まれな被害を受けた。	無
1966 (昭和 41 年 9 月)	台風 26 号	妻沼地方に襲来した台風 26 号は、瞬間最大風速 41m、雨量 200mm を記録し予想以上の猛威をふるい、住家全壊 23 戸、半壊 89 戸、床上浸水 33 戸道路の損壊 22 か所、水稻 1,081ha、畑作物 562ha という大被害をもたらした。聖天山をはじめ、各地の樹木が吹き倒された。	無

※被害状況については、妻沼町誌 S52.3

深谷市における水害・土砂災害年表

発生年月	台風名称等	被害状況	痕跡等の有無と NO
1742 (寛保 2 年 8 月)	大雨	寛保 2 年大洪水。7 月 27 日から 8 月朔日までの 5 日間大雨が降り続き、利根川が氾濫し、中瀬村では家の軒より水は二、三尺も高く流出家屋や倒壊家屋など多数の被害があった。深谷宿では、上唐沢・下唐沢などの悪水路が押し開き、被害は倒壊家屋 11 軒で人畜に被害はなかった	無
1786 (天明 6 年 7 月)	大雨	天明 6 年大洪水。7 月 12 日から 19 日まで、関東・東海地方は未曾有といわれる大雨と洪水に見舞われ、各地で田畑・家屋・人畜に多大な損害を受けた。中瀬村の被害は、流出家屋 12 軒、倒壊家屋 33 軒であった。	無



1802 (享和 2 年 7 月)	大雨	享和 2 年大洪水。6 月 27 日から大雨が続き、7 月 1 日夕刻利根川が越水し、荒川の堤防も決壊した。利根川は権現堂で 300 間決壊し、66 箇村が被害を受けた。当地方においては、矢島村より新井村までの間において囲堤 6000 余間も決壊して大惨状。	無
1910 (明治 43 年 8 月)	大雨	8 月 2 日から降り始めた雨は 10 日間降り続き、各河川とも増水し各所に堤防が決壊した。この大洪水はその範囲広大で南は深谷停車場から北は群馬県木崎停車場に至る数理の間、一円を泥海と化した。市街地も家屋の浸水など大きな被害を受け村部においては田畑の浸水、流出、埋没、作物の被害等甚大で家屋の流出、浸水、人畜の死傷者等多数に上った。	無
1947 (昭和 22 年 9 月)	カスリーン台風	利根川は 15 日夜半群馬県側の堤塘が決壊したため、俄かに越水し始めたので村民一同辛うじて堤防を守ることができた。然し小山川堤が藤田地区で決壊したため、八基、中瀬、新会ともに、全耕地が水没した。被害状況は、家屋全壊 24 戸、家屋半壊 5 戸、床上浸水 1167 戸、床下浸水 348 戸等であった。	無
1966 (昭和 41 年 6 月)	台風 4 号	熊谷では 28 日の雨量が 267 ミリで県内の小河川の氾濫と低地の浸水が著しく各地に甚大な被害。旧豊里村の纏めによると床下浸水 86 戸、物置浸水 20 棟、農作物の被害面積 509ha。	無
1966 (昭和 41 年 9 月)	台風 26 号	深谷市では 25 日の午前 2 時頃から吹き荒れ、3 時過ぎまで驚異的な強風と激しい雨の両面攻撃を受けた。被害状況は全壊住家 81 戸、半壊住家 309 戸、全壊非住家 315 棟、半壊非住家 240 棟、死者 4 名、重傷者 9 名等であった。	無
2011 (平成 23 年 7 月)	台風 6 号	床下浸水 5 戸	無
2011 (平成 23 年 9 月)	台風 12 号	床下浸水 15 戸	無

出典：深谷市史 全（昭和 44 年 12 月）、深谷市史 追補編（昭和 55 年 11 月） 深谷市地域防災計画（風水害対策計画編）（平成 28 年 3 月）

岡部町（現深谷市）における水害・土砂災害年表（岡部町史より）

発生年月	台風名称等	被害状況	痕跡等の有無と NO
1898 (明治 31 年 9 月)	風水害	田畑 80 町 9 反	無
1947 (昭和 22 年 9 月)	カスリーン台風	浸水 377 戸・田畑	無
1953 (昭和 28 年 9 月)	台風 13 号	浸水 20 戸・田畑 20 町歩	無
1958 (昭和 33 年 9 月)	狩野川台風	浸水 30 戸・田畑 30 兆	無
1966 (昭和 41 年 6 月)	台風 4 号	浸水 83 戸・田畑 550.6 町歩	無
1966 (昭和 41 年 9 月)	台風 26 号	浸水 86 戸・破壊 2、674 戸・死傷者 14 人・田畑 270ha	無